

2022.10

多くの車が行き交う県道高崎駒形線の北側、利根川を挟んで対岸は前橋市という萩原町の住宅地の一角に、「萩原の大笠マツ」があります。マツの樹齢は四五〇年以上、樹高は七メートルとあまり高くありませんが、東西二〇・五メートル、南北十八メートルにもわたる枝張りをもっています。

### ◆前橋藩主から拝領した鉢植え が大きく成長

連載

## 烏川流域の巨樹・巨木 Vol.3

### 萩原の大笠マツ ～母屋を三度も動かした～

巨樹・巨木は、その地域の歴史とともに歩み、文化を育んできた地域の宝です。組合の管内にも多くの巨樹・巨木があります。管内の木々を皆さんに紹介します。

主の酒井家から鉢植えのマツを拝領したのは、江戸時代前期のこと。それを庭に移植した後に大きく成長し、枝が母屋に迫ったため、これまでに母屋を三回曳家移動しています。昭和三十年には群馬県天然記念物に、また昭和五十八年には「日本の名松100選」に選ばれています。



一方、森林認証制度は、環境への配慮という視点で森林を評価し、ブランド化につなげています。こうとするものです。

この森林認証制度、世界ではすでに多くの国で普及していますが、わが国では残念ながらあまり浸透していません。その中には、群馬県は、全国的に見ると認証が遅れている状況にあります。

木曽ヒノキ、吉野スギなど、全国には林業にかける労力、気候条件などにより、歴史を重ねてきた木材のブランドがあります。

### ◎組合での取り組み

昨年度に策定した「SDGsへの取組戦略」、また本年の総代会で承認いただいた「森林組合系統運動」で計画したとおり、認証取得に向けて準備を進めています。



今回は、この「森林認証制度」についてご紹介します。

#### ◎「環境に配意」により、他との差別化を図る

森林認証制度は、第三者機関が環境への配慮状況などの基準で森林を審査し、適正に管理されているかどうかをチェックするもの。審査を通過し認証されると、この森林から生産された木材や、それを利用してつくれた木製品にFSC、SGECなどの認証マークを付けて流通させることができます。

消費者が、これを「環境に配慮された森林で生産されたもの」と、他と差別化し購入することにより、付加価値を高めることができます。